

新編日本概況教程

(地理・歴史)

劉鳳嵩 編写

新编日本概况教程

刘凤嵩 编

*

天津大学出版社出版

(天津大学内)

邮编:300072

新华书店天津发行所发行

*

开本:787×1092 毫米^{1/32} 印张:9 字数:203千

1997年10月第一版

1997年10月第一次印刷

印数:1—1100

ISBN 7-5618-0997-2

H·108 定价:9.80元

はじめに

言葉というのは、その国の自然や歴史的・文化的環境の中で生まれ育つものである。とくに外国語習得の場合は、その言葉の背景としての歴史や文化などを理解することが非常に重要である。逆に言うと、その言葉の背景としての知識がなければ、外国語の上達は望みえない。そういう意味で日本語の学習者がより深く日本語を理解しようとするれば、必ずその背景としての知識が必要になるわけである。

言葉の背景としての知識には、その国の自然や歴史・社会・文化などあらゆるものが含まれている。中国語では、それを「概況」というが、日本語でいえば、その国の「事情」ということになる。天津外大の日本語学部には、「日本概況」（日本事情）という科目が設けており、それは、おもに「日本の地理」、「日本の歴史」、「日本の政治」及び「日本の経済」という四つの授業からなっている。いずれの分野に関しても、あまり専門に偏ることなく、日本人が常識として知っているような知識を広く教えるのが基本である。長い間、適当な教科書がなかったので、教育者にとっても、学習者にとってもはなはだ不便であった。

そこで、かねてから日本語学習者のニーズに応

えるような教科書を作りたいと思案していたが、なかなか実現できなかった。今日になって、ようやくそのチャンスに恵まれ、《新編日本概況教程》（地理・歴史）を出版する運びになった。

この本の作成にあたり、中国や日本で出版された書籍や教科書などを、幅広く参考にさせていただいた。そのうえで、日本語学習者にとって、やさしく、分かりやすい教科書になるようにと、いろいろ工夫を施した。とは言え、もともと地理学や、歴史学にはまったくの素人なので、間違いや手落ちが避けられないものと思う。利用者の皆様のご教示を乞いたい。

編者

1997・5・30

目 次

第一部	日本の地理	
第一章	日本の自然と人口	1
第一節	日本国土のなりたちと地形	1
第二節	日本の気候と自然災害	5
第三節	日本の人口	8
第四節	地域の分けかた	10
第二章	九州地方	11
第一節	位置・自然・人口	11
第二節	北九州地方	14
第三節	中、南九州地方	19
第四節	都市と交通・観光	23
第五節	各県の紹介	25
第三章	中国、四国地方	28
第一節	位置・自然・人口	28
第二節	瀬戸内地方	31
第三節	山陰地方と南四国地方	36
第四節	都市と交通・観光	39
第五節	各県の紹介	41
第四章	近畿地方	44
第一節	位置・自然・人口	44
第二節	中央低地	47
第三節	北と南の山地	52
第四節	都市と交通・観光	56
第五節	各県の紹介	59
第五章	中部地方	62

第一節	位置・自然・人口	62
第二節	東海地方	66
第三節	中央高地と北陸地方	73
第四節	都市と交通・観光	79
第五節	各県の紹介	81
第六章	関東地方	84
第一節	位置・自然・人口	84
第二節	首都東京と京浜工業地帯	87
第三節	京浜の周辺地域	92
第四節	都市と交通・観光	97
第五節	各県の紹介	100
第七章	東北地方	102
第一節	位置・自然・人口	102
第二節	東北地方の農林水産業	105
第三節	東北地方の鉱業と工業	110
第四節	都市と交通・観光	114
第五節	各県の紹介	116
第八章	北海道地方	119
第一節	開発の歩みと自然	119
第二節	水産業と農牧林業	123
第三節	鉱工業と総合開発	129
第四節	都市と交通・観光	131
第五節	アイヌの暮らしと文化	134
第二部 日本の歴史		
第一章	日本の曙	136
第一節	旧石器時代	136
第二節	縄文時代	138

第二章	弥生時代	141
第一節	弥生時代の人々	141
第二節	小国家の分立と耶馬台国の誕生	143
第三章	大和時代	146
第一節	大和朝廷の国土統一	146
第二節	古墳文化と大陸文化の摂取	147
第四章	飛鳥時代	150
第一節	聖徳太子の政治	150
第二節	飛鳥文化の栄え	151
第三節	大化の改新	152
第五章	奈良時代	157
第一節	奈良の都と公民の生活	157
第二節	天平文化	158
第六章	平安時代	161
第一節	平安の都	161
第二節	藤原氏と摂関政治	163
第三節	平安文化	166
第四節	武士のおこりと院政	168
第七章	鎌倉時代	171
第一節	鎌倉幕府の成立	171
第二節	鎌倉の武士	172
第三節	武士と農民の暮らし	174
第四節	鎌倉時代の文化	175
第五節	元の侵犯と御家人の不満	176
第八章	南北朝時代・室町時代・戦国時代	178
第一節	南北朝の内乱	178
第二節	室町幕府の確立	180
第三節	室町時代の社会	181

第四節	戦国時代	183
第五節	室町時代の文化	185
第九章	安土桃山時代	187
第一節	大航海時代	187
第二節	安土桃山時代	188
第三節	桃山文化	192
第十章	江戸時代	194
第一節	幕藩体制	194
第二節	鎖国への道	197
第三節	産業と都市の発達	198
第四節	元禄文化	200
第五節	揺らぐ幕府の政治	202
第六節	化政文化	204
第十一章	近代日本の出発	207
第一節	開国の呼び掛け	207
第二節	明治維新	210
第十二章	自由民権運動と近代日本の成長	217
第一節	自由民権と憲法の制定	217
第二節	日清戦争と日露戦争	220
第三節	日本の産業革命	222
第四節	近代文化の流れ	224
第十三章	大正・昭和時代	227
第一節	第一次世界大戦と戦後の世界	227
第二節	大正時代の社会と文化	229
第三節	激動した世界と軍国日本	233
第四節	第二次世界大戦	235
第十四章	現代の世界と日本	238
第一節	日本の民主化	238

第二節	二つの世界と日本の独立	241
第三節	安保闘争と経済の発展	242
第四節	現代の文化	244

付録

難読漢字表	1
日本都道府県一覧表	18
日本の主な山・川・湖	20
日本史簡略年表	22
参考文献	24

第一部 日本^の地理

第一章 日本の自然と人口

日本は、世界の中で特に大きい国でもなく、また、小さい国でもない。その国土は、南北に細長く、島国で、地形も気候も所によって大きくちがっている。

この国土に、およそ1億1千万の人々が住んでいる。その大部分は太平洋沿岸の平野部に集まり、そこには多くの都市が栄え、新幹線が走り、工業が発達している。

第一節 日本国土のなりたちと地形

日本国土のなりたち 日本の国土は、アジア大陸の東にあり、北東から南西へ弓形にならんだ島々からなりたっている。国土の主要部は、本州・北海道・九州・四国の四つの大きな島と多くの小さな島々からなる日本列島で、その南に南西諸島が続いている。総面積は、約38万平方キロメートルで、世界陸地の約400分の1にすぎない。本州はその約60%、北海道は約20%をしめ、九州・四国がこれに次ぎ、その他の島々は小さい。

本州と九州をわける関門海峡には、鉄道と国道の海底トンネルがつけられ、関門橋も、完成した。本州と北海道、本州と四国の間には、それぞれいくつもの海や空の定期航路・航空路がもうけられ、最近では、本州と四国の間には、瀬戸大橋が開通し、本州と北海道の間には、青函トンネルがつけられた。

日本の周囲には、西に、日本海や東中国海をへだてて、アジア大陸の中国や大韓民国、朝鮮民主主義共和国があ

り、北には日本海やオホーツク海をへだてて、ロシアがある。また、遠く太平洋のかなたにアメリカ合衆国があり、南には、同じ太平洋の一部をへだてて、フィリピンをはじめ東南アジアの国々がある。

このように、日本は古くから大陸の文化を取り入れて、アジアの国々と深い関係をもって発展してきた。また、まわりを海にかこまれていることは、国内に乏しい資源を大量に輸入したり、製品を輸出したりするのに都合がよく、産業の発展に大きく役立っている。今では、航空機や通信の進歩、また、経済や政治の発達によって、世界各地との連絡は非常に便利になった。特に太平洋をめぐる地域との関係が密接になり、日本の位置はますます重要になってきた。

日本の地形 日本の国土は山がちで火山が多い。複雑な地形は、風景のよいところや温泉をとめない、観光地として利用されている。また、日本の川は急流で短い。平野や盆地はせまく、国土の約4分の1にすぎないが、耕地がよくひらけ、人々のたいせつな生活舞台となっている。

日本列島は、太平洋とアジア大陸の境にできた大山脈の一部である。そのため、日本国土の約8割は山地におおわれている。四つのおもな島のなかほどには高い山地が背骨のようにつらなっている。なかでも本州の中央部の中央高地には、海拔3000メートル前後の山々がそびえる飛騨・木曾・赤石の3山脈がならんで、日本の屋根（別名：日本アルプス）とよばれている。

東北地方では奥羽山脈が背骨であって、これをはさんで東西に低い山地がならび、北海道では2列の山地が南

北につらなっている。

また、西南日本には、北に中国山地と筑紫山地が、南に紀伊・四国・九州の3山地がならんでいる。

日本はまた火山国として世界的に有名で、特に富士・霧島・千島などの火山帯には活火山が多い。火山帯にそって数多くの温泉がわきだしており、世界一の温泉国といえるほどである。温泉のあるところは観光地となっている場合が多く、たくさんの人々に利用されている。

山地は昔から人々の交通や生産活動を妨げてきた。今でも、山奥の村の中には鉄道もなく、バスのとおる道もない、文化の恵みからとり残された生活をしているところもある。しかし、日本の山地はほとんどが森林におおわれ、木材の産地として重要である。麓には段々畑が開かれている所がある。また、火山の裾野や高原は水の便がわるいが、畑や牧場として利用されている所もある。

日本国土の幅がせまく、山地が海岸にせまっているところが多いので、日本の川は、長さが短く、傾斜が急で、流れは速い。日本の川の中でいちばん長い信濃川は367キロメートルであるが、これでも、アメリカ合衆国のミシシッピ川の、およそ17分の1にすぎない。短くて、急流の多い日本の川は、交通に利用するには不便であるが、水路式の水力発電には都合がよく、日本では明治の終わりから、水力発電が盛んに行なわれてきた。川の水は、飲料水としてもちいられるほか、水田や畑の灌漑用水として、また、工場で使う工業用水としても利用されている。

湖には、琵琶湖や諏訪湖などのように土地が落ち込んでできたものや、霞が浦のように海岸の入江が塞ぎ止め

られてできたものもあるが、火山活動によってできたものが多い。湖は発電・観光・水産などいろいろの方面に役立っている。

日本では平野や盆地が狭く、しかも散らばっている。その面積は、台地を含めても日本国土の20%ほどにすぎない。平野や盆地は、川が上流から運んできた土・砂や小石などでできたものが多い。石狩・新潟・濃尾・筑紫平野などは、主に低く平らな三角州からなり、水田に利用されている。関東平野や十勝平野は大部分が台地で、水捌けがよく畑が多い。

内陸には多数の盆地があり、それをかこむ山の麓には、扇状地が広がっていることが多い。この地形は、大雨のたびに、山地から押し出されてきた砂や小石などが積もってできたもので、主に果樹園や畑に利用されている所が多い。

平野や盆地は、人々の生活にとって大切な所である。そのため、多くの都市が発達し、海岸に埋立地や干拓地が造られている所も多い。

複雑な海岸線 日本の海岸はいっばんに出入りが多く、複雑である。日本列島の東側には、深い日本海溝がみられ、東中国海には大陸だなが広がっている。

まわりをすべて海に囲まれている日本では、半島や湾など、出入りの多い海岸が目につく。東北地方の三陸海岸、紀伊半島の東部海岸、福井県の若狭湾、四国や九州の西海岸などには、リアス式海岸が多くみられる。一方、中国地方から北の日本海沿岸や、北海道あるいは関東地方の東海岸などには、単調な砂浜海岸が続き、砂州や砂丘がよく発達し、九十九里浜が特に有名である。

日本の近海には、南方から暖流の日本海流（黒潮）が流れ、その一部は対馬海流となって日本海を北上する。北方からは寒流の千島海流（親潮）が南下し、三陸沖で日本海流と出会い、その下にもぐる。沖合を黒潮が流れる地域では、冬も割合に暖かく、親潮が流れる所では夏も割合に涼しい。

海流は魚が移動してくる道になるので、その海域はよい漁場になる。特に暖流と寒流が出合う所は、多くの魚が集まり、漁獲高が多い。

まわりの海では、太平洋が特に深く、日本列島の南東側には深さ1万メートルもある海溝がある。しかし、西側では一般に海が浅く、朝鮮海峡や東中国海、北海道北部の沿岸には、深さが200メートルぐらいまでの大陸だなが広がっている。

第二節 日本の気候と自然災害

日本の気候 日本の大部分は温帯にあり、海で囲まれているので、気候は温和で、春は花、夏は青葉、秋はもみじ、冬は雪というように、四季の区別がはっきりしている。そして、降雨量が多く、また、西にアジア大陸、東に太平洋をひかえ、その影響を受けて、冬と夏の気温の差が大きい。西南日本では、夏は熱帯なみの気温になる。しかし、春と秋は、天気は変わりやすいが、気温が適度ですごしやすい。

日本の国土が南北に細長いので、北と南では気候に大きな違いがある。沖縄では、1月の20日すぎから2月はじめに桜が咲き、九州ではひばりが鳴きはじめるのに、

北海道はまだ冬の真っ最中。札幌で、ひばりの声が聞かれるようになるのは4月はじめ、桜が咲くのは5月の半ばのことである。

日本の気候には南と北の違いがあるほか、太平洋がわの地方と日本海がわの地方の間でも、違っている。それは、夏と冬に季節風（モンスーン）の影響を受けるからである。夏には南東の季節風が吹き、太平洋上の湿気を日本に運んでくるので、太平洋がわでは特に蒸し暑くなる。そして、梅雨と台風による雨が多いので、夏が最も雨の多い季節になる。冬には、反対にアジア大陸から強い北西の季節風が吹く。この風は、日本海をわたって湿気をふくみ、日本海がわ一带に多量の雪を降らせるが、山地をこえると乾燥した風になるので、太平洋がわでは晴れた日が続く。

日本の気候に大きな変化を与えるものに、梅雨と台風がある。梅雨は、6月から7月にかけて、毎日のように雨が降りつづき、うっとうしい。梅雨の終わりころになると、西日本では集中豪雨が起こり、大きな被害を起こすこともめずらしくない。梅雨は、九州地方の南部で早く始まり、降雨量も多い。しかし、北に行くほど始まりがおそく、目立たなくなり、北海道ではほとんどみられない。

一方、熱帯の海上に発生した強い低気圧が台風となって、夏から秋にかけて、日本を襲い、年々大きな被害を与える。しかし、台風の雨は、梅雨とともに灌漑や水力発電などの用水を供給することに役立っている。

日本列島は南北に長く、地形が複雑で、季節風や海流などの影響も大きいので、地域による気候の違いがいち

じるしい。これによって、日本をいくつかの気候区に分けることができる。太平洋式気候区は、夏に雨が多く、冬は乾燥する。日本海式気候区は、一般に夏より冬の降雨量が多い。北海道気候区は、降雨量が少なく、冬の気温は特に低い。南西諸島気候区は、年中温暖で雨が多い。また、さらに細かくみると、太平洋式気候区の中でも、冬も温暖で年中雨が少ない瀬戸内気候区、夏と冬の気温の差が大きく、比較的降水量の少ない中央高地気候区などに分けられる。

気候は、産業や生活に大きな影響を与えている。夏は高温になるので、稲作が行なわれ、そのあとには、涼しい気候に適する小麦が作られてきた。東北日本では冷帯性のりんごやジャガ芋が、西南日本では、温帯性のみかんや茶が収穫される。日本人は複雑な気候の特色をよく知り、それにあつたさまざまな産業を起こしたり、衣食住についても、それぞれの土地の気候に応じてくふうをするなど、知恵と努力を積み重ねて、自分の生活を築いてきたのである。

自然災害 日本は地盤が不安定であり、気候の変化がはげしいため、世界の中でも自然災害が多い国である。日本では、ほとんど毎年、暴風・洪水・山くずれ・地滑りなどによる災害が起こっている。また、数年おきぐらいに日本のどこかで大地震があつたり、ときには津波の害も受ける。日本海がわの雪害もいちじるしい。このほか、冷害や干害、霜・雹の害など、天候不順のために農作物が受ける被害もめずらしくない。年々最も大きな損害を与えているのは、梅雨や台風などの大雨による災害である。